

## ITI Scholar NEWS vol.8 (2023, Mar.) ITI Section Japan



### ITI スカラ通信第 8 号をお届けします

2023 年も春めいてまいりました。

今回の通信では、2021 年 7 月より 2022 年 7 月まで、Faculty of Medicine and Dentistry, Queen Mary University of London にて留学されておりました横田潤先生からのレポートとなります。

横田潤先生は、ITI スカラ経験を通じて新しいキャリアへと歩まれております。

**横田潤先生**

**Centre for Microvascular Research,  
William Harvey Research Institute**

**Faculty of Medicine and Dentistry,  
Queen Mary University of London (QMUL)  
(London, United Kingdom)**

## 「ITI scholarship 留学のその後」

- Bench to patient study; Translational approach for patient first-

Centre for Microvascular Research, William Harvey Research Institute  
Faculty of Medicine and Dentistry, Queen Mary University of London (QMUL)

Post-doctoral Research Associate

横田 潤

コロナ禍の2021年7月よりUKのITI Scholarship CenterであるQMULでスタートしたITI Scholarship programが2022年7月に無事終了しました。改めましてITI Section Japan関係者各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

本プログラムは国際交流の促進ならびにインプラント教育、将来のITIリーダーとなる人材育成を目的に遂行されており、筆者も将来像を想像しつつ、センターで臨床に従事しておりました。一方、以前スカラ通信へ投稿したように、QMULでの先天性疾患による多種多様な先天欠損症例を通じて、よりPatient firstな治療について考える機会も度々ありました。特に歯科分野においても臨床での病態・臨床データに対し、メカニズムの解析、ターゲットを特定することで新規創薬やマテリアルなどの開発につながる、Translational approachの進歩が今後、益々重要になるのではないのでしょうか。

そんな留学期間中、世界最高水準の研究所に求人募集があり、自身の転機と思い、意を決して応募しました。一・二次試験を無事通過し、Scalar終了後、同大学のWilliam Harvey Research研究所でPost-doctoral Research Associateとして新しい環境での研究を開始致しました。筆者が所属する研究所は近代循環器学の始祖とも言うべき医師William Harveyの名を冠した研究所で、3つの分野の基礎医学研究に重点を置いた研究所です。各国から来た大学院生、ポスドクが日々研

究に励んでおり、分野の垣根なく彼らと積極的に情報共有しております。また Biological Services Unit での動物実験も勿論のこと、複数の大型解析装置が常設されているため、環境面でも世界トップクラスです。

臨床現場から研究に従事する生活スタイルの変化は当初、慣れるまで時間を要しました。しかし研究が進むにつれ、改めて医学研究の深奥に驚嘆しているのも事実です。今後、さらなる質の高い独創的な研究を目指すとともに、将来的にこの自身の選択が歯科分野における臨床と基礎の架け橋となる、意義あるものと信じて邁進してゆく所存です。



写真: 1371年に設立された、研究所内にある Carthusian monastery

#### 筆者略歴

岩手医科大学歯学部卒業。同大学大学院歯学研究科補綴・インプラント学の博士課程を修了後、助教として勤務。2021年7月より ITI Scholar として英国のロンドン大学クイーン・メアリー校 (QMUL) に留学。ITI Scholarship program 終了後の2022年8月より同大学 William Harvey Institute に Postdoctoral Research Associate として勤務。

ありがとうございました。

